

1、現状の説明

(1)短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を適切に設定しているか。

【短期大学全体】

本学は、仏教精神、中でも特に親鸞によって浄土真宗として明らかにされた精神を根幹とする短期大学である。序章でも少し述べたように 1901 年、政治文化の中心であった東京巢鴨の地に真宗大学として開校した際、初代学長清沢満之が述べた「開校の辞」と、第三代学長佐々木月樵が 1925 年、入学宣誓式で講演した「大谷大学樹立の精神」とを、建学の理念を示すものとして堅持してきている。

初代学長清沢満之は、「開校の辞」において、以下のように述べている（資料 1-1 本学 HP「開校の辞」）。

「本学は他の学校とは異なりまして宗教学校なること、殊に仏教の中に於いて浄土真宗の学場であります。即ち、我々が信奉する本願他力の宗義に基づきまして、我々に於いて最大事件なる自己の信念の確立の上に、其の信仰を他に伝へる、即ち、自信教人信の誠を尽すべき人物を養成するのが、本学の特質であります。…後略…」

本学は「浄土真宗の学場」としての「宗教学校」であり、その教育目標が「自己の信念の確立」と「其の信仰を他に伝える、即ち、自信教人信の誠を尽くすべき人物」の養成であると述べている。

「自己の信念の確立」とは人間としての自己を知ると同時に自己の生きる立脚地を確立することである。したがって、清沢が述べている本学の理念は、「人間としての自己を問うことによって自己を知り自らの立脚地を確立するとともに、みずから学びえた信念を積極的に他者に伝えていくことを使命とするような人物の養成」ということである。

この清沢の精神を受けとめ、本学の建学の理念として更に敷衍したのが、第三代学長佐々木月樵である。佐々木が 1925 年、入学宣誓式で表明した「大谷大学樹立の精神」の中から、本学の建学の理念に深く関わる部分を以下抜粋する（資料 1-2 本学 HP「大学樹立の精神」）。

「そもそも、国民の精神的要素は、いふまでもなく宗教と教育とである。然も、教育は常に宗教を俟つて真実の人格を作り、宗教は教育によつてのみ常にその陥り易き所の迷信に陥ることを防ぐのである。…中略… 本大学が専ら世間の官公私立大学及び各宗大学等とも大にその趣を異にする点は、本大学は先ず以て仏教学を以て諸学の首位とし、また之を中心として教授し研究する所にある。…中略… 仏教が万人の宗教である已上は、その仏教学も、また必ず万人の学たることをそれ自身要求して居る。これやがて、本大学が、仏教を学界に解放し、直接に間接に之を世間に普及するべく勉むる所以である。…中略… 諸子は今後益々本学に於ける人格陶冶の三モットーたる所の、本務遂行、相互敬愛、及び人格純真の三条に心をよせ、各自純真の人間となつていただきたいのである。諸子の学問及び人格の完成が、また本学の完成である。」

佐々木は、本学は宗教と教育との両輪によって「真実の人格を作る」ことにその学びの特徴があることをまず述べる。そのうえで、本学において「真実の人格を作る」教育を、仏教を中心に据えて行うこと、そのために本学における仏教学及び真宗学は、すべての人々に、またさまざまな学問へと開かれた学となるべきことが表明されている。そのような仏教学、真宗学を根本に据える本学が願う所は、本学に学ぶ者が、各自の学びをとおして、

第1章 理念・目的

【大谷大学短期大学部】

純真なる人格の形成をめざし、相互に敬愛できる社会の形成をめざして本務を遂行する人間として誕生することであると述べ、佐々木は「樹立の精神」を結ぶのである。

上記二つの宣言を簡潔にまとめるならば、本学は仏教精神に基づく人格の陶冶（建学の理念の教育的側面）と、仏教の学界（世界）への解放（建学の理念の研究・学問的側面）という二つの側面が、本学の建学の理念の内実ということになる。

本学では、その理念に基づき学則において「本学は教育基本法及び学校教育法による短期大学として、仏教の精神に基づき、職業に必要な専門教育を施し、教養ある有能な社会人を育成することを目的とする。」と目的を明確にしている（資料1-3「大谷大学短期大学部学則」第1条）。

また、このような本学の理念と目的のもと、本学の中長期計画を明確にするため、2012年4月1日から2022年3月31日の10年間を対象として、「大谷大学・大谷大学大学院・大谷大学短期大学部グランドデザイン」（以下「グランドデザイン」と表記）を策定した（資料1-4「グランドデザイン【2012年度-2021年度】」）。

この「グランドデザイン」は、本学の歴史的経緯を踏まえ、現状の社会状況に鑑み、2011年にまとめたものである。そこでは「高齢化社会や少子化による人口減少など、様々な問題に直面する現在の日本において、真宗・仏教を基盤として人間の真の立脚地を問う人物を養成する本学の建学の理念はますます重要となりつつある。ゆえに我々は、『人間学』を基礎にした人文諸学科における学びを通じて、価値観・人生観の動揺する現代社会の只中において、人間の確固たる生き方を探求する独立者の育成が本学の使命であることを確認する。」として、学術研究の場であると同時に人間形成の場としての本学の目指すべき方向性を明示している。

また、「10年後のビジョン・目的」において、「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を育成する」という基本目的を設定し、「教育職員・事務職員一体となって、その実現に向けた取り組みを進める」ことを確認している。

更に、グランドデザインの結びには『人間学』を基礎とする学びをコミュニケーション能力の涵養において展開することにより、自己を見つめつつ、他者と共に社会の確かな歩みに寄与する人物を養成してゆきたい。それは、本学学生と教職員が自信と誇りと責任を持ってそれぞれの本務を遂行するところに実現されるであろう。」と10年後の大学のビジョンを示している。尚、このグランドデザインに基づいて、各種方針を定め、活動を実施している。その詳細は各章で述べる。

本学は、上記に示す本学の理念により、仏教精神に基づいた人間教育を行い、人間にかかわる諸学問の研究成果を広く社会に公開するという理念のもとに活動している仏教科と幼児教育保育科の2学科を有する短期大学である。

【仏教科】

仏教科では、学則において以下のとおり教育研究目的を定めている。

人間の本来のあり方を問い続けた釈尊と親鸞の思想を学ぶことを通して、自分自身への理解を深め、他者との関わりを尊重できる自立した人物の育成をめざす。

第1章 理念・目的 【大谷大学短期大学部】

【幼児教育保育科】

幼児教育保育科では、学則において以下のとおり教育研究目的を定めている。

仏教の精神に立って、一人一人の人間を尊重し、あらゆることに意味を見出して、育つものと育てるものが共に生き共に育つことを基本として幼児教育・保育に携わることのできる人物の育成をめざす。

(2)短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を短期大学構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表しているか。

【短期大学全体】【仏教科】【幼児教育保育科】

本学は、毎年度の『学生手帳』に「開校の辞」及び「大谷大学樹立の精神」を載せ、本学の理念・目的を教職員及び学生へ周知するように努めている（資料 1-5『学生手帳 2014』pp.2-7）。また、先述したグランドデザインについては、2011年9月8日の教授会において学長より教員に周知した。同時にリーフレットを作成し、教職員・全学生に配布した（資料 1-4）。また、2013年10月の開学記念式典後に、初代学長清沢満之の生誕150周年記念シンポジウムを開催し、建学の理念について見つけ直す機会を作るとともに、その内容を採録した冊子『大谷大学初代学長 清沢満之—その精神（にんげん）にせまる—』（大谷大学広報委員会 2014年3月20日発行）を作成し、2014年度の新入生を始めとする全学生に配付した（資料 1-6『大谷大学初代学長 清沢満之—その精神（にんげん）にせまる—』）。

更に、2014年度には、建学の理念を学生、教職員が学ぶ共通テキスト『大谷大学で学ぶ—建学の精神—』（真宗総合研究所特定研究「建学の精神」教育推進研究の成果として2014年3月31日発行）を、研究成果共有の一環として、「仏教と人間Ⅰ」担当の教員及び新生に配付し、新生の全クラスにおいて授業で使用することを確認した（資料 1-7『大谷大学で学ぶ—建学の精神—』）。

本学は、建学の理念を示す初代学長の「開校の辞」と第三代学長の「大谷大学樹立の精神」を本学HPに全文掲載しており、またこれら二つの宣言に基づいた「建学の理念」の要旨を同HPで公表し、本学の理念を社会へと周知することに努めている（資料 1-1、資料 1-2、資料 1-8 本学HP「建学の理念」）。また、建学の理念に基づき、本学の目指すべき方向性を明示したグランドデザインについても、HPに掲載し、社会一般に公開している（資料 1-9 本学HP「グランドデザイン【2012年度—2021年度】」）。

各学科の教育研究目的については、学則に基づきつつ、HPに学科ごとにPDFで公表している（資料 1-10 本学HP「大谷大学短期大学部の教育研究目的及び取得可能学位」）。

更にグランドデザイン策定後、2012年3月31日付の『週刊東洋経済』誌に3ページの企画広告を掲載して社会に向けて告知した（資料 1-11『週刊東洋経済』2012年3月31日号 pp.5-8）。

2013年4月からは、初代学長清沢満之の教育の理念、人間性を広く紹介するために『文藝春秋』にコラムを掲載して紹介を行った。このコラムは『文藝春秋』発行後、本学HPの「読むページ」にも掲載を行っている。9月には、『朝日新聞』（大阪本社版）を使用し、清沢満之の教育の理念を伝えるための広報を行い、また抜き刷りを作成して高校生を中心に配布した（資料 1-12『朝日新聞』（大阪本社版）9月15日朝刊 31面）。

第1章 理念・目的 【大谷大学短期大学部】

先述した冊子『大谷大学初代学長 清沢満之ーその精神 (にんげん) にせまるー』にも『文藝春秋』『朝日新聞』の掲載内容を収録し、全国の真宗大谷派別院、教務所を通じて全国的に配布している。

(3)短期大学・学科・専攻科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

【短期大学全体】

本学は、初代学長清沢満之の「開校の辞」と第三代学長佐々木月樵の「大谷大学樹立の精神」とに宣言された建学の理念について、従来から繰り返しその意義を検証し、本学の指針を示すものとして確かめ続けてきた。それは例えば『大谷大学百年史 資料編』の中の「大学論説集」としてまとめられている。そこにまとめられている 1901 年から 2001 年までの歴代学長の言葉から、本学の理念・目的が、その時代状況の中で検証され、確かに継承されてきたことを読み取ることができる。ただし、その一方で、理念・目的の適切性について検証するプロセスは明瞭であったとはいいがたい面が存在した。

そこで、2013 年 4 月、全学の運営に関する重要事項を審議・決定する組織として、学長、学監・副学長、学監・事務局長、教育・学生支援担当副学長、研究・国際交流担当副学長の 5 名からなる学長会を設置し、この学長会を社会的要請の変化等を視野に入れた短期大学・学科の理念・目的の適切性検証の責任主体として定めた（資料 1-13「学長会及び大学運営会議規程」）。

なお学長会では、今後の理念・目的の適切性を検証するスケジュールとして、3 期（第 1 期 2012 年度～2014 年度、第 2 期 2015 年度～2017 年度、第 3 期 2018 年度～2021 年度）に区分した「グランドデザイン」にあわせ、各期の最終年度（2014 年度、2017 年度、2021 年度）に実施し、次期計画に反映することが適切であるとの方針を定めた。

【仏教科】【幼児教育保育科】

各学科の理念・目的が、建学の理念や目指すべき方向性等を踏まえ適切に設定されているかについては、本学の周年事業や学科・カリキュラム改編などの時々に応じ、委員会を設置して検証してきた。2013 年度からは、学長会において検証を行うこととなり、「グランドデザイン」「大谷大学短期大学部学則」「教育基本法」「学校教育法」「学校教育法施行規則」「短期大学設置基準」を資料として、試行的に検証作業を行った。その検証結果は、大学運営会議（学長会メンバー 5 名に加え、学生部長、入学センター長、文学部長（教育・研究支援担当副学長兼務）、大学院文学研究科長、短期大学部長、企画・入試部事務部長、総務部事務部長、学生支援部事務部長、教育研究支援部事務部長の 13 名の部局長・事務部長からなる大谷大学・本学をあわせた全学運営の責任組織）に報告し、最終的な確認を行った。その結果、本学の理念・目的の実現のために策定した「グランドデザイン」において掲げた「仏教精神に基づき社会を主体的に生きることのできる人物の育成」という目的が、各学科の教育研究目的に反映できていることを確認した（資料 1-13）。

なお、検証の結果、改善が必要と思われる事項があった場合は、学長会より教授会へ報告し、改善を指示する。

第1章 理念・目的 【大谷大学短期大学部】

2、点検・評価

●基準1の充足状況

本学は理念・目的を適切に設定しており、その周知方法・公表方法も適切であると判断できる。以上により、本学の理念・目的は同基準をおおむね充足している。

①効果が上がっている事項

学長会を設置したことにより、短期大学及び学科の理念・目的の適切性を検証する責任主体を明確にした。

②改善すべき事項

なし

3、将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

短期大学及び各学科の理念・目的の適切性の検証にあたって、責任主体である学長会の位置づけ及び検証プロセスを、2014年度、2017年度、2021年度の実施を通して具体化していく。

②改善すべき事項

なし

4、根拠資料

資料 1-1 本学 HP 「開校の辞」 <http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000100g.html>

資料 1-2 本学 HP 「大学樹立の精神」

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000101u.html>

資料 1-3 「大谷大学短期大学部学則」(既出(序-1))

資料 1-4 「グランドデザイン【2012年度-2021年度】」

資料 1-5 『学生手帳 2014』

資料 1-6 『大谷大学初代学長 清沢満之ーその精神(にんげん)にせまるー』

資料 1-7 『大谷大学で学ぶー建学の精神ー』

資料 1-8 本学 HP 「建学の理念」 <http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000000km5b.html>

資料 1-9 本学 HP 「グランドデザイン【2012年度-2021年度】」

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000001mdxn.html>

資料 1-10 本学 HP 「大谷大学短期大学部の教育研究目的及び取得可能学位」

<http://www.otani.ac.jp/data/nab3mq0000012gsm.html>

資料 1-11 『週刊東洋経済』2012年3月31日号 pp.5-8

資料 1-12 『朝日新聞』(大阪本社版)9月15日朝刊 31面

資料 1-13 「学長会及び大学運営会議規程」

資料 1-14 『大谷大学要覧 2014.4-2015.3』